

第2回守口市総合基本計画審議会 議事録

日時：令和2年8月21日（金）10時00分～12時00分

場所：守口市役所 1階 市民会議室 104・105号室

出席者：

1号委員（市議会議員）：

阪本委員、竹嶋委員、土江委員、西田委員、服部委員、水原委員

2号委員（学識経験者）：

岡山委員、河田委員（会長）、久保田委員、野田委員、松川委員、森（由香）委員

3号委員（市民）：

岡内委員、河野委員、寺岡委員

4号委員（市長が適当と認める者）：

秋山委員、加藤委員、佐々木委員（副会長）、藤原委員、森（美恵子）委員、

事務局

欠席者：なし

1. 開会

事務局

ただいまより、第2回守口市総合基本計画審議会を開会します。

前回の審議会におきましても熱心な審議を誠にありがとうございました。審議の内容や頂戴したご意見等は、中村副市長、工藤策定委員長等と事務局が協議し、今回の審議資料に反映しております。また、西端市長にも今後とも逐次報告のうえ、策定作業を進めてまいります。

はじめに会長よりご挨拶を頂戴いたします。

会長

皆様、おはようございます。大変暑い日が続きますが、相変わらず新型コロナウイルス感染症の問題が収束しません。定義の違いはありますが、大阪府で重症患者が増えているという状況で、先行きの見通しが定まりません。元々、政府が基本的な方針をきちんと出して行くべきものですが、地方分権ということで、都道府県知事にその権利を譲っていることに問題があると思います。特に財源については、政府が赤字国債を出せばよいのですが、自治体はまったくお金がない状況です。3密対策をすると、飲食業の人たちはお客さんが来ないということで大変になります。売上がないということは、ゆくゆくは倒産するということです。これを何とかしなければなりません。もっと細かな対策をしなければなりません。現在分か

ったところでは、感染した人は平均3時間、カラオケの部屋や病院の待合室にいたということで、3密で、長時間に渡って危険なところにいることはよくありません。瞬間的に感染するわけではないため、電車が満員だからといって、すぐに感染するわけではありません。落ち着いて、慎重に考えて行動していただくことが大事です。

日本は欧米先進国に比べて、感染率も死亡率も2桁低くなっています。日本はかなり清潔な国です。靴を履いたまま部屋に入るようなことは、日本ではありません。ロンドンでは、騎馬警官が馬に乗っていますが、靴で馬の糞を踏んでそのまま部屋に入ります。靴を脱ぐのは寝るときだけというのは、不潔になります。現在、フランスではマスクの着用を法的に規制するというので、まだマスクをしていない人がいる状況です。衛生思想が欠けているところがあります。

決して恐れることはなく、従来のように清潔に、家に帰るとうがいをして手を洗うなどの習慣をきちんと守れば、爆発的な感染は起こらないと断言してよいと思います。怖がりながらも、常に緊張して生活することがないようにすることが大切です。そうしなければ、暑さで体もまいってしまいます。よろしくをお願いします。

事務局

ありがとうございました。これより、会長による議事進行をお願いします。

会長

事務局より、本日の出席委員数の報告をお願いします。

事務局

本日の出席委員は、定数20名中、20名で、守口市総合基本計画審議会規則第4条第2項の規定に基づく定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

会長

次に、事務局より配付資料の説明をお願いします。

事務局

(配付資料説明)

2. 議事

(1) 基本構想(素案)の検討について

会長

それでは、事務局より基本構想(素案)の検討について説明をお願いします。

事務局

(資料1、2説明)

会長

本日の審議は、まず、意見提出のあった項目をパート毎に順に審議し、最後に全体を通じでの審議を行いたいと考えています。3つのパートに分けて質疑応答をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

会長

本日は構想について議論しますが、これを計画に落とし込む作業があります。計画に落とし込む作業のところでも、前に戻って構想を修正することは可能です。これは10年間の計画ですが、守口市が今まで、途中でフォローアップの委員会を開催して進捗状況を厳しくチェックすることを行ってきたかどうか疑問に思っています。作った以上は、実現しなければなりません。実現のための様々なやり方があると思います。来年度から始まるわけですが、この審議会を通してその辺りのことも構想に入れながら、審議いただきたいと思います。要するに、今回で終わりではなく、前に戻って修正することは今年度中は可能と考えていただき、適宜お気づきの点をご指摘いただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、まず、基本構想の5ページと6ページに記載のある「1.基本構想の策定背景」におけるご意見を伺います。あらかじめ頂いたご意見は、資料の「通し番号の1から7」です。先ほどの事務局の説明に対する再度のご質問や補足をするべきとのご意見等があれば、その点も含めてお願いします。

委員

私が提出した意見の中で「メディアリテラシー」と記載しましたが、事務局の回答では、書き込みの部分のみにスポットを当てていたため、私の意図と少し違うと思いました。情報リテラシーは、書き込みや読み取りのことだけではなくありません。フェイクニュースと言っているように、大きなメディアでもそうですが、昨今、一般的に使われているメディア等でも、偏向報道があるため、全体的な情報処理能力が大事と言われています。単に書き込むことだけでなく、もっと幅広い意味で言っています。単に、個人的に悪口を書き込むことだけに終始するというスポットの当て方では、観点が狭いです。教育現場においても、広い意味での情報をどのように扱うかという視点も入れるように言われています。この点について、もう少し深めていただきたいと思います。

事務局

先ほど、「SNS等への心ない書き込み等」と説明しましたが、文中表記については、「誤った情報に左右されない主体的な活用能力を高める情報教育や情報モラルの確立」と記載しています。説明の中で1例を挙げて、昨今のSNSでの心ない書き込みのことを言いましたが、趣旨は、記載の通り、情報リテラシーという形で考えているということで、構想に追記しています。

委員

情報教育や情報モラルの確立というのはよいと思うので、それでよいと思います。

委員

5ページの訂正で、「新型コロナウイルス感染症の影響により」の部分ですが、これは、実際の状況に適合した文言だと思いますが、最後に、「中長期的にはやがて回復すると見込まれます」となっています。今の国際状況を見ると、米中の対立もそうですが、今後の経済状況の見通しは難しいと思います。この訂正文を見て、あまりにも楽観的に「回復する」という文言を入れて想定するのはいかがなものかと思いました。もう少し危機感をもつことが必要だと思います。計画の場合、楽観的な部分に依存するのではなく、現実的な面を見て、その中で守口市がどうあるべきかという文言のほうがよいと思います。

会長

今の点についてですが、これは今年度中に審議するため、将来的にどうなるかは、今の予測より年度末の予測のほうが正確になります。その時点で、修正等の手を加えてはどうかと思います。

私のほうから説明があります。6ページの「⑤持続可能な社会に向けた具体的な『行動』の必要性の高まり」で、SDGsが非常に重要な課題として出されていますが、SDGsが出てきた背景をなかなか理解いただけていないと思います。実は私はSDGsに関して国連SASAKAWA防災賞をいただき、背景をよく知っているため、少し説明します。

SDGsが始まる元になったのは、1990年から始まった国連世界防災の取組です。日本とモロッコの提案で、「国際防災の10年」が国際連合の全加盟国の合意で進みました。10年間行ってみて分かったことは、途上国は、経済開発をしても災害が発生すると、また元の木阿弥になるということです。1ドルの防災投資が7ドルになって返ってくるということで、「防災の主流化」が強く叫ばれました。2000年の国際連合の総会で、「ミレニアム開発目標」が採択され、途上国をどうするかが計画目標になりました。しかし、途上国をどうするかというときには、先進国に関心がないと困ります。2015年に仙台で開催した第3回国連防災世界会議で、「Sustainable Development」をどう訳すかが大きな課題になりました。途上国は、「Development」を「開発」と訳したいと思っていましたが、先進国は「発展」と訳した

いと考え、経済的発展を目指すというニュアンスで入れようと考えていました。そこで、途上国から、「数値目標を出して、先進国がどのくらい財源を負担するかを明示しない限り、そのようなことはできない」という主張がありました。17の目標と169のターゲットは、すべて数値目標が入っていません。2030年に一体どこまで進捗しているかをチェックしようとしても、数値目標がないため、「努力した」という形で終わりかねないという危機感があります。17の目標と169のターゲットは、本来は数値目標がなければ実現が非常に難しいということを皆が認めています。

ただし、豊かな社会ということで全加盟国の賛成を得たため、経済的に豊かになることではないということを知っておかねばなりません。日本より1人当たりGDPが多い国が、25か国あります。現在、日本は26位です。25か国の新型コロナウイルス感染症の感染率と死亡率を図面に落とすと、すべて右肩上がりです。経済的に豊かな国ほど、感染率と死亡率が高いです。すなわちSDGsの目標は、豊かな社会であって、経済的に豊かな国になることではないということです。これは必要条件であっても、十分条件ではありません。経済的に豊かになることは大切ですが、それでは十分ではないということです。

守口市がSDGsで豊かな社会を目指すときに、収入が増えることを一番の目標にしてしまうと、本当の意味での豊かな社会にはならないことになります。新型コロナウイルス感染症の問題は、「社会が豊かになるということは、一体どういうことなのか」という課題を私たちに突きつけてくれています。

ここに短い文章で書いていますが、現在、もっとも困っているのは、17の目標の中の第1の「貧困をなくそう」です。現在、新型コロナウイルス感染症でもっとも困っているのは、途上国の、特に大都市です。非常に感染者が多く、さらに貧困になっています。典型的なのがブラジルで、ブラジルの貧民層が新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。先進国の感染とは異なり、元には戻らないことも分かっています。持続可能という問題を、もう少し私たちの身近な問題としてとらえていただきたいと思います。

守口市が「Sustainable Development」を標ぼうするなら、格差の是正が非常に大きな問題です。新型コロナウイルス感染症の問題で、生活保護を受ける人が随分増えています。貧困になっているということです。守口市の今後の施策の中でも、格差をどうするかは非常に大きな問題です。貧困になってしまうと、様々な目標があっても達成できなくなり、すべての足を引っ張ります。今後の計画の中で一体何を大切にするかを、並列ではなく、中に重要性についての違いがあることを認識していただき、これを皆様のご意見で調整していきたいと思います。よろしくお願いします。

この意見を書こうとすると大変なので、書いていません。背景を、単に豊かな社会になるということで、様々な試みをしなければならないというくらいに思っていると、実はそのような社会にはならないということを知っていただきたいと思います。できれば、数値目標が出せるものは、それをつける形で、途中で進捗状況をフォローアップ委員会でチェックするくらいの真剣さが必要だと思います。

他にご意見はありませんか。

委員

今のことは私も気になっていましたが、ここにそぐわないかと思い、一旦意見を取り下げたのですが、実は、持続可能性を載せること自体、どうかと思うところがあります。意味が幅広すぎると思います。会長が言われたように、持続可能性は、環境問題でも事業でも経営でも、何でも言えます。ある事業を行って、それに持続可能性があるということならよいのですが、何でもあてはまる広すぎる言葉です。事務局としては、どのような意図でこの言葉を入れたのでしょうか。単純に国際的な傾向だからということで、持続可能性を記載してしまうと、狭いところにスポットが当てられて「あれにもこれにも配慮が必要」となってしまいます。そうすると、これは最上位計画なので、市が事業を行う際に何にでもお金が必要になります。そのような足かせにもなりかねません。幅広すぎる言葉なので、簡単に入れてしまうと、後で自分の首を絞めることにならないかという怖さを感じます。もちろん重要な考え方ですが、ここで大きく入れるのはどういう意図なのかを教えてください。

事務局

各市の総合基本計画でも、言葉は悪いですが、SDGsが流行りという部分があります。しかし、われわれは、流行りに乗っかるものではありません。17の目標と169のターゲットに、具体的な数値目標は書かれていませんが、1自治体としても目指し、世界の物差しにあてはめて第6次総合基本計画を振り返ったときに、方向性は背中を向けていないことが検証しやすいという意味で、SDGsを入れています。短い文章ですが、「自治体がそれぞれの特性に応じて、目標を設定し」ということです。先ほど委員が言われたように、環境問題を守口市だけが取り組んでも効果はかなり薄いです。世界的な問題ではありますが、守口市としても環境問題に取り組むという決意を込めて、今回SDGsの項目を入れています。

会長

効率を考えると、行政はすべて縦割りがよいです。垂直構造がもっとも効率がよいです。ただし、SDGsが掲げている問題は、単独の部局で解決できる問題はほとんどありません。連携しなければなりません。守口市の計画を実行する際には、世話をする部局を決めて、関係するところと1つのチームを作って進めることが必要です。特に環境や福祉、医療の問題は、それぞれ担当するところだけで解決できる問題は本当に少ないです。

今年7月に、熊本県で多くの人が亡くなられた豪雨災害では、27か所の高齢者福祉施設が被害に遭っています。高齢者福祉施設には、待機者も多くおられます。入所者だけでなく、待機者も含めてどうするかを考えると、福祉だけでは解決できません。熊本県内だけで、収容できる問題ではなくなってきました。福祉だけでなく防災や医療も絡めて考えなければならず、様々なところに関係します。今後、守口市でこの計画を実行する際には、関連す

るところが進捗状況を横断的に議論することを定式化しておかなければ、解決できることは少ないです。最終的に実現できなくなると困ります。行政は、縦割りが効率がよいのですが、これから進める計画は、ほとんどのものは複数の部局で横断的に行わなければ、うまくいかないという特徴をもっています。この辺りについては、この審議会の後半のところ、行政がどのように対応するかについても皆様の意見を伺って、それを参考にして進めていただきたいと思います。

委員

前回のご意見を踏まえて、新型コロナウイルス感染症の関連が4か所ありますが、これは10年間の計画です。新型コロナウイルス感染症はこのまま収束しないかもしれません。5年後くらいには、「新型」という言葉が古くなる可能性があります。しかし、これは重要なものなので、「感染症」という言葉を残しておけばよいと思います。1つ目と2つ目は「新型コロナウイルス感染症」として、3つ目以降は、「新型コロナウイルス」の文言をなくして「感染症」としたほうがよいと思います。4～5年経ってこの計画を見た際に、陳腐化して見えないかが気になりました。

事務局

構想の中で「新型コロナウイルス感染症」という文言を多く記載しています。ご指摘のように、この構想は10年間使用しますが、コロナウイルスは、5年後には新型ではなくなっているかもしれません。この辺りを事務局で再度見直すと共に、審議会の皆様からのご意見を踏まえて見直していきたいと考えています。

会長

それでは、次に、8ページと9ページに記載されている「(3)本市の特性」について審議します。頂いたご意見は、資料の「通し番号の8」です。いかがでしょうか。

委員

言葉の表現についてですが、「モビリティ」は、若干聞きなれない言葉かもしれないため、「エビデンス(科学的根拠)」のような、カッコ書きをつけて分かりやすい表現にしたほうがよいと思います。

事務局

そのような表記で、分かりやすい表現になるよう検討します。

委員

文言についてですが、「交通利便性」のところ、本市には、京阪電車、大阪メトロ（谷町

線、今里筋線)、大阪モノレールの駅が6つあり」とありますが、一見すると、モノレールの駅が6つあるように見えます。「合わせて6つ」や「合計6つ」などの表現にしたほうが分かりやすいです。

委員

同じく「交通利便性」についてですが、「京都や北大阪地域へのモビリティの高さ」とありますが、神戸も行きやすいため、「京都や神戸」のほうが分かりやすいと思います。神戸も阪神高速に乗ればすぐですし、電車でも行きやすいです。

事務局

「京都や北大阪地域」とした意図は、京都は京阪電車で乗り換えなしで行けるということです。審議会で神戸方面のご意見があるということなので、事務局にて検討します。

委員

北大阪地域は守口市から近いので、交通利便性をアピールするなら、そこまで書いてもよいと思います。

会長

交通の利便性はよいのですが、駅を降りても何もないために、すぐに家に帰ってしまいます。新潟県長岡市は、新潟県中越地震後に再開発をしました。一番はじめにやったことは、市役所が駅から2kmの遠いところにあり、耐震性に問題があったため、建て替えることとして駅の近くに移転したことです。冬は雪が降るため、市役所に行くのが大変でした。新幹線の長岡駅は在来線も同じところにあるのですが、ガラスで4面を覆った空中回廊で、駅から市役所に通じるようにしました。また、そこから地元の商店街に降りれるようにしました。つまり、駅の乗降客が、地上を歩かずに寒さを防ぎながら、空中回廊で自分の行きたいところに行けるようにしました。そうすると、駅前に大きなホテルと会議場と百貨店が集まってきました。そのため、鉄道から降りたお客さんが、すぐに家には帰らず、いろいろなところに寄っていくようになりました。しかも市役所は日曜も、市民に必要なところは開庁しています。郊外に住んでいる家族連れが車で来て、市役所の駐車場に車を停めて、仕事をした後に、百貨店や商店街に行くようになりました。元々シャッター商店街でしたが、果物屋や喫茶店が戻ってきて、にぎわいのあるまちになっています。

単に交通利便性がよいだけでなく、そこに何らかの個人的な仕事などができる空間があるのもよいと思います。長岡市には大学が5つありますが、すべて郊外にあり、大学生がすぐにそこに帰ってしまうため、駅前に大学生が立ち寄ってインターネットを調べたり、交流ができる市のセンターを作りました。若者がすぐに自分の大学方面に戻らず、一時留まって、他の大学の学生と交流できたり、市民もそこに入ってくるような施設を作りました。す

ると、電車を降りてすぐに戻ってしまうことが少なくなり、若者が駅前にいるようになりました。

交通利便性は、単に便利であればよいものではありません。たまたまそこに人が来るわけなので、その人たちがそこで様々なことができる空間があってもよいと思います。例えば、地下鉄の守口駅を降りると何もありません。便利と言っても出入口が4か所あるだけで、上がると普通のまちになってしまっています。これではまちの発展にはつながらず、単に「通うのに便利」として使われるだけです。

駅前をどのように利用するかは、大日もそうです。大きいのはよいのですが、歩いていくには遠くて大変です。今は、スーパーマーケットはいくらでもあるため、集客力はありません。この計画には、交通利便性をどう生かすかという視点が必要です。大日のイオンモールは、日曜は買い物客の車が駐車場に入ろうとして車が渋滞して交差点が大変です。そのようなことを解消しなければなりません。単に商業施設が集まっているからよいということではなく、どうあるべきかを前提にすることが必要です。投資だけを「welcome」としてしまうと、素敵なまちにはつながらないということも考えなければなりません。守口市の審議会がイオンモールを作る際にどのような議論が行われたかは、問題だと思います。作る前から交通渋滞することは分かっています。分かっているでも作ってしまうという、そのようなところがあるのではと思います。

計画に書いていることを実現する際に、目標はよいのですが、目標に入らないものはすべて切り捨てられるという形でできています。そこが問題で、目標にならなくても、周辺環境を考えなければならぬという形のプロジェクトと言いますか、そのようなものを出していく必要があります。目標が達成できても、それ以外のところでとても不便になることや、ネガティブなところが出てくるのが心配です。

8ページに記載されていることは、すべて便利、快適、効率がよいなどの目標に向かって計画されていますが、それを実行するにあたって、それ以外のところが見落とされる可能性があります。そこは慎重にやっていかなければなりません。具体的にどうすべきということではありませんが、計画を進めるということは、ともすれば、目標を実現することが最重要になるため、それ以外のところは、枝葉ということでどうしても切り捨てられることが、従来行われています。実は、これが積もり積もって、問題視せざるを得ない状態になることにつながります。今後、新しいことをするときには、必ず、そのようなことが付随することを承知して行っていただきたいと思います。具体的に、構想をどうすべきというわけではありませんが、構想を実現する際に、ともすれば、目標が独り勝ちして、それ以外のところが切り捨てられることが起こると、結果的に、まち全体の開発がうまくいかなくなることにつながることを考えていただきたいと思います。

委員

交通の利便性の件ですが、確かに守口市は、他市からのアクセスがよいことは利点です。

一方で、高齢社会なので、「市域は概ね平坦であり、自転車での移動がしやすくなっています」とありますが、自転車での移動が危なくなってきた高齢者にとって、京阪バスが路線を縮小する中、市内の交通利便性が課題になっています。後半の計画に出てくるのでよいと思ったのですが、駅前開発で外からのアクセスはよくても、普段の買い物などの市内の利便性が問題なので、構想で、課題として記載したほうがよいと思います。

事務局

課題として掲載したほうがよいというご意見ですが、次の審議になりますが、構想では、11 ページの②の4行目で、高齢者などが活躍しやすい環境を整えていくということを課題として触れています。

委員

交通の利便性という項目があるため、そこにも課題として挙げてはどうかと思います。

委員

ただ今の事務局の説明ですが、社会で活躍しやすい環境と高齢者の普段の生活の中の利便性を高めることは、まったく別の視点なので、ひとくりにすることには、少し疑問があります。

事務局

整理して回答します。交通利便性は高齢者の移動のことなので、回答がちぐはぐになってしまい申し訳ありません。ここはあくまでも本市の特性として交通利便性を記載していますが、ご意見を踏まえて審議会として修正を検討します。

委員

分かりました。11 ページももっと分かりやすく記載していただきたいと思います。

委員

中心市街地についてですが、「守口都市核」と「大日都市核」があり、「守口都市核」のほうを「市の玄関口」と記載しています。駅前開発等も含めて玄関口として進めているため、メッセージとしてはよいのですが、10 ページを見ると分かるように、守口市の形状は奥に広がっているわけではなく、幅狭い市街地で「守口都市核」と「大日都市核」があります。どちらかが玄関口というより、並列しているものだと思います。例えば、高槻市のように、駅前だけがあって奥に森や山がある場合は玄関口と言えますが、守口市のこの形状では、どちらかが玄関口ということはないように思います。乗り換えで他にアクセスするところもあるため、今後は、片方が玄関口という言い方ではなく、並列して2つの都市核を有すると

いう言い方を検討していただければと思います。

事務局

審議会として、ご意見ということであれば、修正に向けた検討も視野に入れていきたいと思えます。

委員

これを修正したほうがよいということではないということをつけ加えます。

委員

先ほどの話に戻るのですが、全体として、守口市での定住を促進したいということと、中で過ごしていただきたいということが整理できていないところがあると思えます。外部から入ってくる人の利便性と、中の利便性が整理できていないと思えます。先ほど会長が言われたように、外部からの利便性ばかりを考えていると、ベッドタウンとしてはよくても、働きに出て昼間は誰もいなくなってしまうと、福祉的にも防犯的にも、よくないです。24時間とまでは言いませんが、日中は誰かが何か活動をしていることが、あちこちに見られる状態になるためには、様々なものがどこかにまとまっているのではなく、要所要所に点在していて、そこにお客さんが来たり、商売をする人がいたり、その人たちが帰った後に住んでいる人が戻ってくるような、一定の流れだけで人が動くのではなく、中で自由に動ける状況を、開発では作ることが必要です。そのような視点をもって、中に住んでいる人の利便性や安全、暮らしやすさ、過ごしやすさと、外から来る人の過ごしやすさを整理したうえでここに記載しなければ、同じような問題やコメントが随所に出てくると思えます。

事務局

交通利便性のところで様々なご意見をいただきましたが、将来都市像で、「単なる『便利で住み良いまち』から、安心して幸せに『いつまでも守口市に住み続けたい』と考える市民が定住する都市」を目指すこととしています。そこに向けた課題を記載しており、守口市が目指す姿を14～15ページに記載しています。例えば、ご意見をいただいた守口市内がもっとよりよいまちになっていくべきという点については、15ページの「(4) 市民が誇れる魅力あるまち」で、「居心地の良い場所があちこちにあり、歩いていて様々な出会いがあり、まち歩きが楽しい」、「誰もが市内での移動がしやすい」などを「実現を目指す守口の姿」として掲げています。

今回議論いただいている本市の特性については、課題というより、現状をできる限り前向きに、市の魅力と言えるものを特性として記載しています。今後の課題やありたい姿については、後ろの部分でも引き続き議論していただければと思います。

会長

ご存じだと思いますが、昔、ニューヨークは犯罪が多かったため、「24時間都市」を宣言しました。「24時間、地域に人が住んでいる」というコンセプトです。誰かがまちをウォッチしているということで、犯罪が減少しました。それを日本にもってくるときに、日本の都市計画の専門家が、「24時間、働いている人がいるまち」としてしまったのです。そのため、夜中にゴルフの打ちっぱなし場が開いているなど、歪んだ形の24時間都市になってしまいました。まちというものは、人が常時いなければなりません。もっともよい例は横浜です。横浜は昼間人口が非常に少ないです。東京に働きに行っているため、日中の人口が大変減少します。このようなことでは健全なまちとは言えません。衛星都市になってしまっています。

交通機関が発達していて通勤や通学に便利なのはよいのですが、日中に人が少なく高齢者ばかりになるまちは、よくありません。様々な業種が定着して、時間的に極端な人口増減が起きないようにしなければ、減少したときに犯罪は発生します。まちから人がいなくなるということは、ウォッチする人がいなくなるということです。大阪市でも、中央区ビジネス界隈は夜間に犯罪が多いです。昼間は働く人が多いのですが、夜間は家に帰ってしまうため、ほとんど無人状態になって、車上狙いや空き巣などの犯罪が多い地域になっています。まちの発展は大事ですが、中の活動があまりにもバランスを崩すと、犯罪が多発するなど様々な問題が出てきます。

阪神・淡路大震災後に、神戸市内の放火件数が激減しました。まちに人が出てきたからです。誰かが見ているという環境になって、放火などの犯罪が少なくなったことが分かりました。委員が言われたように、様々なコンポーネントが極端にならないように、まちを作ることが大事です。極端になると、その陰で様々なネガティブな要因が出てくるということを考えておかなければなりません。

委員

ただ今のお話からすると、守口市内、市外の人口動態がどうなっているかという現状をしっかり把握することが必要だと思います。RESASなどを活用して、人口動態の数値を出していただくことは難しいでしょうか。

事務局

以前、お渡ししたデータ集の15ページに昼間人口を掲載しています。平成22年度までの国勢調査では、昼間人口と夜間人口の差が「100」くらいで昼間人口のほうが若干多かったのですが、平成27年度の国勢調査では「95.5」と、夜間のほうが人口が多いまちに変わってきています。

委員

RESASで取るのは難しいのですか。リアルタイムのデータが取れると思いますが。

委員

国勢調査は5年に1回なので今のデータが最新で、RESASも国勢調査を活用しています。

会長

他にご意見がないようなので、このパートでの質疑はひとまず以上とし、最後の全体審議の際に、もう一度議論を深めることにします。

次に、11ページと12ページに記載のある「(4)本市の主要課題」を審議します。提出済みのご意見は、資料の「通し番号の9から13」までです。ご質問、ご意見等をお願いします。

委員

12ページの下から3行で、「スクラップのみを目的とするのではなく」とありますが、スクラップは一般的にはなじみのない言葉だと思います。「スクラップのみを目的とするのではなく」という文章がここで必要なか疑問があります。変更、または削除したほうがよいと思います。

「新たな市民、都市ニーズ」ですが、市民ニーズや地域住民のニーズは分かりますが、「都市ニーズ」が何を意味しているかが分かりにくいです。変更したほうがよいと思います。

事務局

審議会からのご意見として、表現の仕方、文言も含めて検討させていただきます。

委員

交通利便性はあくまでもアクセス問題で、車や電車については確かに発達しているため、徒歩で歩くことや回遊性についても一言、言及してはどうかと思います。まちに住んでいる人の視点も入れたほうがよいと思います。

事務局

11ページの「②人生100年時代を見据えた多様な人が過ごしやすいまちづくり」の下から4行目に、「100年の人生を豊かに暮らせるように、誰もが安心して外出・移動できる手段の確保や、安心して過ごすことができる居場所づくり」と記載しています。課題としては、「外出・移動できる手段の確保」を記載しています。

委員

先ほどからかなり話題になっているため、もっと文章を引き延ばして広めに言ってもよいと思います。

委員

広めという意見が出ていますが、あくまでも総合基本計画の基本構想なので、あまり具体的に記載しなくてもよいと思います。例えば、徒歩圏内に様々な施設を作ることやコミュニティバスを走らせることなどは、各論です。総論でそこまで記載するなら、すべての項目について、どこまで具体的に記載するかを議論する必要が出てくるのではないのでしょうか。ここは基本計画の基礎部分で、出だしなので、課題や目指すところを示したうえで、その後の各論につなげるものだと思います。

委員

分かりました。それで問題ないです。

会長

子育て世代、つまり 15～64 歳の人が子育てが終わると守口市から出ていくということが記載されていますが、この一番の原因は何ですか。幼児教育・保育の無償化で人口が増えましたが、その子どもたちが小学校に上がる時に、中学校や高校も他市と変わらないため、守口市に住み続ける魅力がないということで、市外に出ていくということでしょうか。

事務局

具体的な理由までは難しいですが、過去の、幼児教育・保育の無償化が始まる前から、5～6 歳の子どもをもつところの人口が転出傾向にあることは同じです。今回、守口市で子育てをし続けたいと思っていただけることを課題として挙げています。

会長

私は専門が危機管理なので、地方で講演する際に、危機管理の失敗例を言います。夫婦に子どもが 1～2 人しかいないのに、東京の大学に行ってしまうのは危機管理の失敗だと言っています。東京の大学に行ってしまうと仕事も東京で見つけて、東京で結婚して、盆と暮れしか帰ってこなくなります。せっかく高校を卒業するまで一緒に住んで一生懸命育てても、鳶に油揚げをさらわれるように、東京に行ってしまうのはよくないです。関西にも立派な大学があるため、家から通える環境のほうがよいということを、もっと言うことが必要です。就職率も東京がずば抜けてよく、サラリーマンの給料は、大阪は東京の 7 割です。それくらい格差があります。放っておくと若者はどんどん東京に吸収されます。高校までは地元において、大学に入った途端にいなくなってしまうと、家庭としても寂しくなります。東京一極集中のようないびつな構造はよくありません。全国に散らばるのはよいですが、1 つのところに集中すると、様々な問題が顕在化します。11 ページの「①子育て世帯等の定住促進」については、子どもは家から大学に通わせることなどをもっと言わなければ、子どもの主張に従って、行きたい大学に行くことを放置することになります。それがよくないということ

ではありませんが、そればかりになってしまうと、若者がいなくなってしまう。幸い、守口市は通えるところに、よい大学がたくさんあります。なぜ東京の大学に行くのかと言っただけでなければなりません。子どもの自由に任せてはよくないということです。守口市として、そのような方向性を出してもよいと思います。

教育委員会にもっと頑張ってもらわなければなりません。守口市の小中学校のレベルは、悪くはありませんが、それほど高くなく普通なので、もっと上げなければなりません。私が小中学生のときは、守口市の小中学校はけっこうよかったです。昔は大阪でも天王寺高校、大手前高校、北野高校などに随分行っていました。私学も灘や甲陽などは昔と変わりません。そのため、子育て世代が定住するためには、家から通えるところにより教育施設があることが必要です。守口市の子どもが高校卒業後に家から出ると、帰ってこないことは寂しいということをお願いしなければ、勝手気ままに行ってしまう。東京はエキサイティングシティなので、若者にとって非常に魅力的なところ。子どもに任せていると、どんどん優秀な若者が守口市に定住しないことになります。どうすれば人口が増えるかですが、働く先があると人が集まってきます。パナソニックも三洋電機も見込めず、将来的に戻ってくることは望めません。この辺りをきちんと理解して、プラス方向にもっていく努力を明示しなければ、このままでは結果的に、子育て世代の定住を促進したいが、定住できないということになりかねません。

もっと具体的に、家族はずっと一緒に住むのがよいという感覚を出していくことが必要です。勝手にやればよいという社会では困ると思います。データを見ても、今は本当に高齢世帯が増えていることが分かります。しかも高齢者の一人暮らしの人も増えています。バスなどを出していただけていますが、買い物だけでも大変です。今後、ますますそうなります。家族はバラバラになるより、一緒に住むほうがよいという流れを出していかなければ、定住促進をしても、できなかったということでは困ります。具体的に何が困るかということを出すことが必要です。一人暮らし世帯が 50%近くになっています。このような流れの中で、困っていることが、もっと困る状況になることにつながると思います。

高齢者の免許証の問題がありますが、守口市に来たら、高齢になって免許証を返上しても生活に困らないなどがあればよいです。地方に行くと、今はそれができません。80代の人でも車を運転しなければ生活できません。東日本大震災から9年になりますが、高台に移転した人は、そのままでは生活できません。そのため高台に住む高齢者が亡くなると、そこには誰も住まなくなります。戸建て住宅と集合住宅が残っても、そこでは生活できません。若い人も少ないです。今は、車に便乗したり、1時間に1本のバスで買い物に行ったり、デリバリーサービスを利用したりしていますが、それも恐らくできなくなります。来年は東日本大震災から10年になりますが、高台移転した集落は人口が0になることが、既に分かっています。しかし、政府は、現在住むところがない人がいるのは困るということで、とりあえず、便宜的に高台移転でまちを作っているだけです。

もちろん守口市はそうではありませんが、高齢化がどんどん進んで、一人暮らしが増えた

ときに、そのような人たちがどのように生活していくかを視野に入れておくことが必要です。高齢者も減少します。松下記念病院は守口市駅前まで無料シャトルバスを運行しているため、それに乗って京阪百貨店に買い物にも行く人もいます。このサービスがなくなると皆困ります。80代の人が歩いて買い物に行くのは大変なので、とてもできません。幸い、中規模のスーパーマーケットがたくさんあるため、今は生活できますが、人口が減ってくると、それも立ち行かなくなります。小さい商店街やスーパーマーケットはどんどんなくなっています。大きなものは生き残っていますが、小さいものがどんどんなくなっている状況を見ると、ますます住みにくいまちになります。子育て世帯等の定住促進については、計画のところで、もっと具体的なことを示さなければ、この流れは止められないと思います。

私は守口市に来て25年になりますが、この間に商店街がどんどんさびれてきています。仕事がなく、買い物客が来なくなっています。絶対数が減っています。食べ物屋さんには少なくなっているものの、マッサージなどの高齢者向けのものは増えています。それにも限界があります。このような主要課題を記載する際には、同時に、具体的に計画でどう落とすかも考えることが必要です。単に指摘して、こうありたいということを記載するだけでは困ります。

冒頭に述べたように、構想と計画がリンクして、計画の進捗状況をきちんとチェックすることが重要です。トータルが問題であることを認識して、主要課題の背景を市役所で理解していただきたいと思います。

守口市役所の職員は、ほとんど守口市に住んでいますか。周辺市に住んで、通勤手当をもらって通っている人が多いのではないのでしょうか。市役所に働いている人が守口市内に住むことがもっともよいです。住むことで実情が分かるからです。他市から通勤で来ているだけは、単に電車が混むことくらいしか分かりません。守口市役所の職員が市内に定住することを奨励する制度を作っていただきたいと思います。日本は通勤手当が充実しているため、どこに住んでも損はしません。通勤手当があるのは日本だけです。アメリカもドイツもフランスも通勤手当はありません。そのため、皆、職場の近くに住んでいます。東京では新幹線で通っている人もいます。門真市や東大阪市に住んでいる人が守口市に通勤することもよいですが、市役所の職員は、守口市がどうなっているかを肌で感じる必要があります。それには住むのが一番です。そのようなことを奨励することが大事です。率先垂範と言いますが、守口市役所の職員が守口市に住むことで、守口市内の様々なことを皆がよく分かっているという状態にしなければ、どうするかというときに、皆で力を合わせることにつながりません。守口市役所の職員が守口市に住むことを奨励することをもっと表に出してもよいと思います。

災害が発生した際に、この問題が出てきます。災害が発生して、市役所や町役場が働かなければならないときに、遠くから通っている職員は、道路や鉄道が使えないと来ることができません。様々な理由がありますが、守口市役所の職員が、できるだけ市役所の周辺に住むことを基本にするなどを、明らかにしてもよいと思います。通勤手当が出る範囲であれば

どこに住んでもよいというのは、随分昔の話です。今のような災害多発時代は、市役所の職員はできるだけ市役所の近くに住むことが望ましいという形を、もっと市役所が出してもよいと思います。そのようなことはまったく書かれていません。しかし、本来的にはそうあるべきだと思います。

私は、災害の問題に携わっていますが、被災した自治体に行くと、ヘッドクォーターである市役所や町役場に職員が来ることができないことが、もっとも困ることです。守口市も災害が発生すると、その問題が起こります。そのため、日頃の仕事をすることも、近くに住むことがよいという形で進めていただくことがよいと思います。ぜひそれをお願いしたいと思います。

委員

市外に人が出ていくという観点での話ですが、逆に言えば、守口市から移住してくる市があるということです。守口市になぜ人が入ってこないのかという問題もあると思います。市民アンケートで、市内に暮らしていてどう思うかという点があります。イメージ戦略の中に、パブリックイメージというものがあるように、外からどう見られているか、なぜ外から人が入ってこないのかという視点もあると思います。市内からではなく、逆に市外からの視点が欠けていると思います。この辺りについて、教えていただきたいと思います。

事務局

都市イメージの向上は大切な観点だと思います。12 ページでも、都市イメージの向上を1つの課題としています。その中で、まず守口市民に、守口市がよいところだと思っていただき、それを広く知っていただけるような考え方をとりたいと思っています。もちろん、ご意見のように、市外の人に守口市のことをたくさん知っていただき、守口市がよいところだと思っていただくことも大事な課題だと思います。

委員

思ってもらえることだけでなく、市内だけで調査しても分からないこともあります。市外からどう見えているかということも、今後は、視点の1つとして取り入れて考えていただければと思います。

委員

先ほど、会長から、なぜ幼稚園から小学校に上がる段階で北摂地域等に流出するのかという話がありましたが、私は以前、学校に関わっていましたが、小学校に上がる段階で、入学予定者数と実際の数が違うことから、その理由を聞いてみると、実際に転校されていました。また小学校から中学校に上がる際に、地元の公立中学校に行かず、北摂地域に移住されたということもありました。それほど多くではなく、もちろん全員にアンケートを取ったわけで

はありませんが、やはり教育環境が、淀川の向こうとこちらでは違うということがあり、北摂地域のほうが教育が安心ということで転出したということ、ほとんどの場合で聞いています。先ほどの会長の疑問に対する回答の1つになると思います。もちろん、仕事の関係など、様々な要因があると思います。私が聞いた中では、教育環境が淀川の向こうのほうがよいということで引っ越しする例が多かったです。

委員

委員が言われることはごもっともですが、そのようなことは基本計画に落とし込むことだと思います。

われわれが考えなければならないのは、そのようなことを考える際には感覚ではだめだということです。何にでもエビデンスが必要です。北摂地域の教育環境と守口市の教育環境のハード面はどちらがよいかです。私は、守口市のハード面はよいと思っており、それ以外に要因があると思います。表に出せる情報が様々にあると思います。それらを基本計画に落とし込んでいくイメージをもっています。

会長

それでは、次に13ページの「2. 将来都市像」を審議します。「まちづくりの目標」も含めてご意見をいただいてもけっこうです。

委員

この文面だけでは、「将来都市像」が市の基本コンセプトに過ぎないのか、市内外に発信するメッセージなのかが取りにくい面があったと思います。行政としてのコンセプトであれば、「いつまでも住み続けたいまち守口」は幅広い層をカバーしているため、素晴らしいコンセプトだと思います。一方で、キャッチコピー的に、常に守口市の頭に使う言葉であれば、よりキャッチーなものにすることも1つの手法だと思います。その両方があってもよいと思います。コンセプトは、「いつまでも住み続けたいまち守口」として、対外的にはキャッチコピー的なものにしてもよいと思います。もしそうするなら、ある程度、パブリックイメージやイメージ戦略など、他市に対して守口市のイメージを発信する、あるいは市内に住んでいる人のイメージを上げる意味でも、何らかの気の利いた言葉やフレーズがあってもよいと思います。それをわれわれが考えると、コピーライターではないので、よいものが出てくるかどうかは難しいです。例えば、プロのコピーライターに頼んでも、それほど高い金額がかかるわけでもないため、よいと思います。これについて、ご意見を伺いたいと思います。

事務局

キャッチコピー的なものということですが、まずはこの審議会で議論いただき、有効ということであれば、提言も含めて検討したいと思います。

委員

委員が言われたことは、私もその通りだと思います。「いつまでも住み続けたいまち」にするための都市像を書くべきだと思います。他都市から見て、どのような優位点や特徴をもって住んでもらえるまちにするかが重要で、それが、今まで議論してきた特性や課題を踏まえて、ここにつながっていることが必要です。このような話は難しく、どの総合計画でも割と同じような課題や特性になるため、どうかなと思うところはあります。

私は、守口市に住んではいないのですが、何となくのイメージはあります。そうしてほしいということではありませんが、私は、とても多様な人がいるという印象をもっています。それほど多くを知っているわけではないのですが、外から見たイメージでは、都会にいる規格化された子どもの雰囲気ではなく、国語能力が高く、人間的な子どもが多いイメージをもっています。そのため、多様な人たちが、何か新しいものを作り出していくような都市像があればよいと思います。実際は、言われていたように、教育上の何かをアピールすることになるかもしれませんが、要するに、守口市に住み続けたくなる具体的な都市のイメージが必要だと思います。

会長

今は構想の段階なので、それは計画の中で具体化を示すことになると思います。

委員

通常、総合計画の都市像はここに書くべきです。計画は、「5つのまちづくりの目標」を具体的に展開するものです。5つの目標の頭にくる都市像がここに出てくるもので、委員が言われたようなキャッチーなものだと思います。あえて「いつまでも住み続けたいまち」という言葉を使うということであれば、それでよいかもしれませんが、これでは単に現象にすぎないと思います。

会長

「いつまでも住み続けたいまち守口」はいつ頃から出されたのですか。今回出されたのではないですね。

事務局

「いつまでも住み続けたいまち守口」という文言は、今回出したものです。ただし、定住するという考え方は、過去の総合基本計画の中から引き継いでいます。文言は今回初めて出

しました。

会長

それでは、最後のページまででご意見、ご質問はありませんか。

守口市はけっこう犯罪が多く、あまり安全安心なまちではないと思います。なぜでしょうか。

委員

そういうイメージであると思いますが、実数は下がっています。

委員

基本的に体感治安は実数に即しません。別の何かに引っ張られて、守口市はあまり安全なところではないというイメージになっています。それを改善するためには、犯罪を減らすというより、むしろ体感治安を高める施策を打つことが必要です。道を一本入ると街灯がなかったり、急に寂しい雰囲気になるなどに関係して、「自分がここを通って安全と思える場所がどのくらいあるか」ということに、かなり依存します。そのような方向で行わなければ、体感治安はアップしないと思います。

会長

委員は実は犯罪が専門です。日本でも数少ない犯罪を専門とする研究者です。言っていることは的を得ていると思います。守口市は、あまり安全なまちではないと思っています。まち全体が暗く、街灯も少ないです。極端によいとところと悪いところが混ざっているように思います。

委員

どこと比べてということではなく、時間的なものもあると思います。イオンモールのような大きなショッピングセンターが閉店すると一気に照明が消されるため、人通りもなくなって、急に暗く寂しいところになります。このような急激な変化に対して不安感を覚えるということがあります。

また身近な問題では、駐輪場のマナーや、車が交通渋滞する中で自分が安全に渡れるか、車に乗っていて安心して通れる道かなどが日々積み重なって、「ここは行きにくい」、「安心して通れない」などと思うようになっていきます。駐輪場やゴミ捨て場などのマナーや落書きなどから、体感治安は悪化します。

委員

大阪府警察安まちメールに登録して、様々な情報を得ています。何十年前も前は、ひたたく

りや傷害事件が多かったのですが、守口警察署の公式なデータではありませんが、最近は、傷害案件、ひったくり、窃盗、盗難などの案件より、特殊詐欺の情報のほうが多いです。以前は夜中に痴漢を見たこともあります。周囲を見ても、そのような案件は減っているように思います。

委員

高齢化しているのです。そのような案件が減少しているのだと思います。守口市だけが安全になっているのではなく、日本全体で同じ傾向があります。特殊詐欺が多いのは、対象として狙われやすい高齢者が日本全体で増えてきていることと、暴力団が解体されたため、その影響で、そこでしのぎを得るしかない人が大量発生していることが根本にあります。守口市だけで何とかなることではなさそうです。

委員

会長が言われたように、守口市は犯罪が多いイメージがありますが、実数が減ってきて安心できるということを市民に言っている部分があるため、どうしても実数が減っているということを言います。友人にどこに住んでいるかを聞かれて、「守口市」と答えると、「守口市は犯罪が多いですね」と言われます。確かにイメージが悪いです。われわれとしては、実数は減っているという思いがありますが、他市の人には、体感治安で悪いイメージをもたれています。そのイメージを少しでも減らす何かが必要です。

委員

守口市以外では、高槻市と埼玉県の田舎に住んでいましたが、守口市は夜道は明るい。「何となく危ない」というイメージがあるのだと思います。これは比較検討ではないと思います。イメージをどう上げていくか、他市から見て、「守口市は安全、よいまち、クリーン」と思ってもらえるようなイメージ戦略を作ることが大事だと思います。

委員

「いつまでも住み続けたいまち守口」という将来都市像は、言葉としてはとてもよいと思いますが、全体的にどのようなイメージなのかという入りも大事だと思います。隣の大東市の「大都市よりも大東市」は、とても面白く、次に「どのようなことをやっているのか」と興味を引かれます。イメージが大事な部分があります。キャッチコピーではありませんが、将来都市像として、そのような意味でのイメージを考えることも大事だと思います。

会長

議会に非常に関心をもっていただいていることが分かって、安心しました。他人事と感思っていただくと困ります。議会は市民の声がもっとも届くところです。守口市に対するイメー

ジがあまりよくないことがベースにあるということです。これから地道な努力をしなければ、イメージはなかなか変わりません。そのようなキャンペーンを積極的に出していくことが必要だと思います。

最後に全般について、いかがでしょうか。

委員

委員に教えていただきたいことがあります。イメージの件ですが、学力が高いイメージがイコール安全などの相関関係のエビデンスはありますか。

委員

もっとも簡単でもっとも効くのは、挨拶です。通りすがりでも気軽に挨拶ができる状況は、「ここは私たちの縄張り」ということを周囲に知らしめることになります。挨拶される人も「ここにいれば守られる」と感じます。外部の人は「このまちは誰かにケアされている」ということが分かります。「ケアされている」ということが認知されることが、もっとも安心感につながります。

街灯も数があればよいということではありません。背の高い木に街灯の明かりがかかってしまって、夜間に街灯が点灯しても半分くらいの明るさしかなければ、いくら街灯があっても、「機能していない」、「ケアされていない」と思って、不安感をあおることにつながります。そのようなことが効いてきます。

委員

そのようなことを深めていくと、キャッチコピーの検討が必要になるかもしれませんが、まだ検討の余地があると思ってよいでしょうか。

事務局

将来都市像については、審議会でのご意見を踏まえたうえで、事務局にて最終的な方向を検討して、再度審議会で審議いただいて決定することになると思います。

先ほどの犯罪の関連について1点補足します。以前お渡しした資料「守口市特性・主要課題について」で、刑法犯認知件数について、大阪府全体、門真市、守口市のグラフがありますが、守口市は、防犯カメラを1,000台設置して、40.2%減少しています。ただし、ご指摘のように、市民アンケート等では、「街灯が暗い」、「落書きがある」、「ゴミが落ちている」などで、治安が悪いという結果があったため、われわれは体感治安の改善も1つの課題と認識しています。

会長

時間の関係から、基本構想についての審議は、一旦これで終わります。

基本構想については、大きなアウトラインについての基本認識は一致できたかと思えます。また、本日頂いた各個別の意見の最終的な取り扱い、スケジュール等について事務局から改めて説明をお願いします。

事務局

それでは、今回の基本構想の全体的なまとめは、12月4日開催の第5回審議会にて一括して事務局から最終報告をさせていただき、その後、審議会にてご審議頂いた上で、答申項目として決定します。その際に、本日議論いただいた「将来都市像」の部分も確定します。よろしくをお願いします。

(2) 前期基本計画（素案）について

会長

それでは、議題2「前期基本計画（素案）について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、次回の審議会に向け、前期基本計画の1～14の施策について概要を説明します。施策15以降は、次回の審議会でも説明します。1～14の施策に関して、ご意見、ご質問がある場合は、8月28日（金）までに、お願いいたします。

（前期基本計画説明）

(3) その他

会長

次回の審議会の日程等について、事務局から説明をお願いします。

事務局

次回の審議会は、お手元の開催通知のとおり、9月4日（金）午前10時から、本日より同じく守口市役所内 市民会議室104・105号室で開催します。議題は、前期基本計画（素案）の、施策1～14の審議です。

3. 閉会

会長

これで、第2回守口市総合基本計画審議会を閉会します。

以上